

# 人間ドック健診施設機能評価 Ver.4 総合評価

施設名： 社会福祉法人 恩賜財団 済生会熊本病院 予防医療センター：

## 受審施設の概要

済生会熊本病院予防医療センターは1935年に開設され、1964年に健診部門が開設された。

現在の予防医療センターは2002年に6階建ての専用棟としてオープンされた。健診フロアの他にリラクゼーションルーム、レストラン、フィットネスジム等があり、包括的な健康管理ができる仕組みが構築されている。

年間の受診者数は、一日ドック約16,000人、二日ドック約5,000人、その他の健診が約13,000人、さらに検診車による巡回検診を約1,600人実施している。2006年に初回の認定を受け、今回が2回目の更新審査である。

## 第1領域 理念達成に向けた組織運営

済生会熊本病院の理念のもとに、予防医療センター独自の基本方針が作成され、ホームページや施設内掲示により周知されている。スタッフには携帯用カードを名札内に携帯する事で周知徹底されている。個人情報保護の観点から、受診者の知る権利、情報提供の責務等に関する文書を事前送付し、受診者の理解を得ている。

就業規則等各種規程は適切に整備され、イントラネットにより常時閲覧可能となっている。また、予防医療センターとしての中期経営計画・年度事業計画・予算書等が策定され、目標達成状況は四半期毎に評価がなされ、イントラネット上に公開されている。

1日当たりの受診者数に対しての医師数は適切であり、人間ドック認定医や人間ドック健診専門医等の資格取得者が多く、その他の専門医資格取得者も多い。健診に対する質向上に向けた積極的な取り組みは高く評価できる。

また、医師や職員に対する教育体制も適切に構築され、定期的なカンファレンスを含む年間教育計画に基づいて職員全体で健診業務に対する質の向上に対しての積極的な取り組みも高く評価したい。

医療安全マニュアルは適切に作成され、定期的に医療安全委員会が開催されている。医療事故やインシデントが発生時には、関係者により原因究明と分析がなされ、再発防止の具体案を再度医療安全委員会にあげて、報告書等はイントラネット上で公開・周知がなされている。

情報管理マニュアル及びトラブル対応マニュアルが適切に整備されている。健診データへのアクセスは、個人ID・パスワードによりアクセス制限がなされている。また、パスワードは年2回の変更が義務付けられている。

高齢者や障害者等、配慮が必要な受診者への対応については、全館バリアフリーとなっている。高齢者や障害者等に対して、転倒ハイリスク者には受診票にマークを付け、ハートフルパスを携帯してもらう事で、検査前に担当者に周知されている。

外国人受診者については、英語のみ通訳できるスタッフが対応している。また、英語以外の受診者には、同性通訳者が同行の場合のみ受診可能である。昨年は8人が受診している。

## 第2領域 受診者中心の良質な健診の実践

予約・受付の業務は、マニュアルに沿って実施されている。収受業務はダブルチェックが確実になされ、記録も含めて適切である。会計処理は病院経理室が担当し、売上や未収金等についての実績が毎月経営会議に報告され検討が行われている。

人間ドック学会が提示する基本検査項目は概ね実施されている。

受診環境は、受診者数に見合ったスペースが確保されている。段階受付を採用しており、待ち時間も考慮されている。検査室や面談室は個室化されている。前回指摘の内視鏡室の仕切りはカーテンのままであるが、内視鏡検査は全員鎮静して行うため、受診者ご本人は隣の検査の音は気にならないと思われる。検査室に続く広いリカバリースペースがある。鎮静後のリカバリー時間はおよそ1時間である。

受診に関する事前の情報提供は、ホームページや事前に送付される書類によって、受診者へ十分に行われている。また、種々の問い合わせへの対応方法も、マニュアルとしてまとめられている。ホームページや事前送付書類に記載され、問い合わせの担当者が決まっている。健診システムに各種問合せのマニュアル、想定問答、検査の禁忌事項がまとめられており、医事課の事務担当者であっても、医療内容についても対応できるようにシステム化されている。検査の安全性の確保のため、受診当日は、看護師による医療面接はもちろん、受付案内でも体調を含めた多くの情報が収集されている。得られた情報は、即座にシステム内で共有され、検査前に確認できるため、その後の質の高い健診に寄与している。医療面接では、緊急の医師対応が必要であると判断した場合は、システム入力前に医師の判断を仰ぐ手順が決まっている。また、内視鏡検査では事前に説明書が渡され、署名による同意を得ている。急変時の対応としては、救急カートが用意されている。BLS訓練は医事課も含め、全職員が行うことになっている。教育訓練は年間計画にもとづき組織的に行われている。

精度管理体制は適切で、検査毎に責任者を置き、業務マニュアルに基づいて管理が行われている。外部精度管理サーベイへも参加し良好な成績を得ている。検査結果の判定は、人間ドック学会の判定区分に準拠した形で行われている。画像の判定については、当日の結果説明前に各分野の専門医により二重読影まで行われている。また、画像等の読影・判定の検討会は定期的を実施している。医師のみならず、関係技師も含めた、検討会が、月4回ほど開催されている。読影・判定技量の向上に寄与していると言える。

医師による結果説明は、日帰りドックの79.6%、2日間ドックのほぼ100%の受診者に対して実施され、前回審査時よりも向上している。説明内容は、血液検査はもちろん、すべての画像も含まれる。要精密検査、要治療者には当日紹介状を含めて、案内している。

保健指導は、保健師、管理栄養士、健康運動指導士が担当している。日帰りドックの30.5%、2日間ドックの99.4%の受診者に実施している。マニュアルが整備され、指導内容は、生活改善指導、食事、運動、禁煙等多岐にわたる。医師の結果説明の補足も行い、受診勧奨、受診案内も行っている。指導内容も健診システムにすべて記録、次年度の指導に生かせるようになっている。特筆すべきは、予防医療センター内にフィットネスジムが併設され受診者は適宜運動指導士のもとで利用できる。また、スタッフの教育体制も整っている。年間計画にもとづき保健指導者の育成に努めている。

### 第3領域 継続的な質改善の取り組み

受診者の要望を把握する体制としては、館内にアンケート用紙を配布して毎日集計している。直接スタッフに投げかけられた意見などは、スタッフが文章化してアンケートに記入している。改善検討は関連部署で検討し、改善に努めている。改善状況は院内ポータルサイトで確認できる仕組みが構築されている。

フォローアップについては、マニュアルが整備され、充実した形でしくみが構築されている。要精検率は、すべての項目で10%未満、精検受診率は概ね80%以上である。また、紹介状を当日手渡しし、紹介状返信がない場合、直接受診者に電話するなど受診行動につなげるための工夫を続けている。追跡検査の把握率は前回審査時よりも格段に向上した。

健診結果の分析は継続的に行われている。各種学会への調査協力をしている。日本人間ドック学会学術大会をはじめ、毎年複数の学会等で発表が継続されている。予防医療センターの年報を毎年発行している。済生会熊本病院の年報に一部ではなく独自の年報である。各業務部門の1年の締めくくりとして作成されていて、業務向上の意欲が表れている。

受診者に向けた有用な情報提供としては、定期的に健康情報の資料を作成し、ホームページや施設内に掲示している。また、施設内での健康教室の開催や、地域住民に対して10年以上継続して実施されているイベント(からだ健学祭)を無料で開催し、健康への意識向上に努めている事は評価に値する。今後も継続的に開催される事を期待する。

業務改善の体制として、「リスク対策」「内部監査」「働き方改善」「5S」「接遇向上」の委員会が組織されている。それぞれの委員会で策定された年間活動計画に基づいて、各目標に対しての目標達成状況や残課題についての評価がなされ、職員一丸となった業務改善に対する取り組みは評価できる。

### 総括

人間ドックの専任医師体制は充実しており、各種専門医の資格取得にも意欲的で、受診者満足に向けての積極的な取り組みは評価できる。健診施設としての方針は健診センターのスタッフ全員で共有できており、部門毎の目標達成に向かって努力されている事も大いに評価できる。また、地域住民に対する健康意識向上の為の努力も引き続き継続していくことをきたいする。

総合的見地から、人間ドック健診施設機能評価の認定更新に値すると判断する。

審査日 2019年11月14日

認定承認日 2019年11月30日